

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○「子ども主体の学び」全教室展開に取り組み、児童生徒の「思いや考え」を大事にした多様な学び方や機会を創造している。 ○学校行事等の取組の中で望ましい集団づくりの実現を図り、自己肯定感や自己有用感を高める工夫をしている。 ●すべての子どもたちに学びを保障し、子どもの居場所づくりの取組を進めてほしい。	児童生徒の現状 ○自分で決めたり選択したり考えたりすることが楽しいと実感する児童生徒が増えてきた。 ○自らが学校や学級を創る主体となり、創意工夫を行う児童生徒の姿が見られる。 ●自分で決められなかったり、考えることが難しかったりする児童生徒への支援や安心して通い学ぶことができる環境づくりを更に進めてほしい。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	コミュニケーション 人としての思いやり 自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒 ○ 児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○ 児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。
---	--	---	---

III 自校

ミッション
 社会の中で活躍でき、貢献できる社会人となるための基礎力の育成

学校教育目標
 自ら学び、共に歩み、夢の実現に向け、努力を惜しまない生徒の育成

現状

<生徒>
 ○豊かな発想をもち、表現しようと努力する生徒が多い。
 ○ボランティアや校外での活動を積極的に行う生徒が多い。
 ●自分の夢や目標、進路が明確でない生徒が多い。
 ●不登校・長欠生徒の割合が高い。(出現率5.6%)

<授業>
 ○ペアやグループで話し合う活動を積極的に行う。
 ○向上心をもって、学習に取り組む生徒が増えてきた。
 ●人間関係が希薄なため、自分の意見や考えを伝えることに抵抗を感じている。
 ●自ら課題を発見し、取り組むことができていない。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒		
	学びに向かう力	コミュニケーション力	思いやり・感謝する心
めざす子ども像	生徒同士の対話、教員との対話を通じて、自己の考えを広げ、深めることができている。	他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることができる。とともに、他社の意見を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。	自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたわり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。
	選択した情報を基に、自分の考えを形成したり、伝えたりすることで、問題を見出して解決を行う探求ができている。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じることができ。
	学んだことを生かして、よりよい人生や社会づくりに貢献できている。	自己の対人関係や社会(集団)とのかかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができることを考え貢献できる。また、自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。
研究	テーマ	「認知のしくみ」から学習方法を見直す ～自分で考え、選ぶ、決める授業をめざして～	
	内容等	全員が研究実践にそった学びづくり案を作成し、授業改善を図る。神辺中学校区・市内グループによる研究授業の計画にそって行う。	
めざす授業の姿	・ICTを活用して、意見を発信、交流し、自分の思いや考えを表現できる生徒を育成する。 ・生徒が自ら課題を選択し、取り組むことができる学びをつくる。 ・他者との関わり合い、教え合い、話し合いがあり学びが深化する。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 神辺中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力 _セ 評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 _セ 評価	達成評価	総合評価
1	1 生徒自ら「考える、選ぶ、決める」ことを大切にしたい、子ども主体の学びをつくる。	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の内発的な動機を高める授業改善を行う。 多様な学習方法を充実させ、学びに向かう意欲を高め、長期欠席者を減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの状況等を把握し、個に応じた学びを把握し、授業をすすめる。 学習場面で「そもそも」「なぜだろう」を意識した授業をつくる。 教室と自宅やほっとルームをオンラインでつなぎ、学習支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が「考える、選ぶ、決める」ことを大切にしていると回答する生徒の割合を90%以上とする。 授業のなかで「そもそも何?」「なぜだろう?」と思っている生徒の割合を90%以上とする。 	□指標に係る取組状況 自分が「考える、選ぶ、決める」ことを大切にしていると回答する生徒の割合…86% 授業のなかで「そもそも何?」「なぜだろう?」と思っている生徒の割合…77.1%	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 放課後図書館を自習室として開館し「学びタイム」の場の提供とその取り組みを行う 「見る見る見せる」の継続 授業において発問、思考する時間の確保、繰り返しの3点を重点的に取組む。 				
1	2 生徒が安心して通うことのできる学校づくりを実現する。		見直し	<ul style="list-style-type: none"> 全教室で「安心安全の場」をつくり長期欠席生徒数を減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期欠席者ゼロ実現委員会が中心となって個別対応チームを編成し、ほっとルームを中心に学習支援や心のサポートを行う。 規範意識や集団の一体感が高まるように、生徒が主体的に作り上げる行事を仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規長期欠席者の出現率を減らす。(現状5.6%) 「学校で安心して生活できている」の回答割合を80%以上とする。 「行事や係、委員会活動等を通して、規範意識が高まった」の回答割合を80%以上とする。 「行事や係、委員会活動等を通して集団の一体感が高まった」の回答割合80%以上とする。 	□指標に係る取組状況 ・新規長期欠席者の出現率…0.7% (4名) ・長期欠席者の出現率…3.2% (18名) ・「学校で安心して生活できている」の肯定的解答…83.9%。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して登校できる学校づくりを行っていくために、「学活」の時間の充実を図っていく。 長欠「O」実現委員会でSSWやSC、外部団体との連携を図りながら取り組みを進める。 QUアンケートを活用して、各学級の実態や生徒一人一人の実態把握に努めていく。 ICTを活用しながら学校とのつながりを確保する。 				

5	3		継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域について知り、地域を大切に思う生徒を育成する。 ・他者のために動いたり、役立ちたいと思ったりする生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と対話する機会を設けて、課題や改善点を見つけられるような学びをつくる。 ・学級や部活動、地域の活動などで生徒が貢献できるような場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が住んでいる地域のために何か行動している」と考える生徒の割合を昨年度よりも増やす。(現状 60%) ・「人の役に立っている」と回答する生徒の割合を増やす。(現状 70%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が住んでいる地域のために何か行動している」…49% ・「人の役に立っている」…66% ・「自分にはいいところがある」…71% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に防災・減災 DAY を企画しており、その継続し合取り組みとして、校内のボランティアを計画し地域や家庭で行動するきっかけとしたい。 				
5	4		見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校を目指し、確かな情報を公開できるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを更新したり、学年学級通信等で情報を公開したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートから、「学校の様子がよくわかる」と回答する保護者の割合を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 HP が更新できる教職員が少なかったため夏休み中に研修を行い適宜更新できるようにした。(学校の様子がよくわかる…61.4%) ・学校だより、学年、学級通信の発行だけでなく、ICTを活用した会議や情報の提供を行った。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組を継続しつつ、保護者のニーズを応えられる情報や時期を精査する。 ・開かれた学校図書館運営を検討する。 				
1	5		新規	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の病休者を0にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の見直しや自分の仕事の優先順位を考え、時間外勤務を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務で45 時間未満を100%めざす。 ・「忙しいと感じているが、新しいことに取り組む余裕がない」教職員を50%以下とする。(100NEN アンケート現状 77%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・45 時間以内…38% (4 月) ⇒ 59% (9 月) 改善傾向にある。 ・「新しい事に取組む余裕がない」…82.1%だが、「失敗を恐れず、挑戦することができ」…89.3%であり、全てはできないが、挑戦している。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に業務が遂行できるよう行事予定を早めに提示する。 ・時間が必要なことと不要なことをさらに精査するための検討会議を行う ・ICT の効果的な活用を図っているが、さらに効果的な活用方法を模索する。 				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。